

インターバンクの声（2016年7月1日）

昨夜の海外市場は、イングランド銀行(BOE)カーニー総裁が今夏の金融緩和を示唆したことでポンドが急落、またユーロ圏当局者からは、欧州中央銀行(ECB)が債券購入ルールの緩和を検討していることが伝わり、ユーロも一時的に大きく下落する場面があった。市場は英国の欧州連合(EU)からの離脱決定ショックから落ち着きを取り戻しているようにも見えるが、こうした金融政策に関わる材料に素早く反応するのを見ると、足許のポンドやユーロの水準は引き続き不安定な状態にあると言えそうだ。キャメロン英首相は9月の退陣を決断している一方、EUからの離脱申請は在任中にはしないとしているが、キャメロン首相の後継として有力視されていたジョンソン前ロンドン市長が保守党党首選への不出馬を表明した。もともとは残留を意識していたジョンソン氏はともかく、強力に離脱を推し進めた独立党のファラージ党首も政権に入ったとしても閣僚になることにさえ腰が引け始めているとされ、本音ではまさかの離脱決定に困惑し後悔している人が随分いるようだ。一部にはEU離脱決定を覆す可能性を探る動きもあるようだが、ドイツのメルケル首相は「離脱覆す道はない」と断言しており、どこかのタイミングで、再びポンド売りになりそうな気がしてならない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。